様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ１２５８５

研究課題名（和文）フランス三大都市における都市公共交通の整備と都市化（1870年代～1930年代）

研究課題名（英文）Development and Urbanization of Urban Public Transportation in Three Major French Cities (1870s-1930s)

研究代表者
國府　久郎（KOKUBU, Hisao）

早稲田大学・商学学術院・准教授

研究者番号：５０７６２３７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はフランス三大都市（パリ、リヨン、マルセイユ）における都市公共交通の整備と都市化の関連性を検討した。フランスの大都市では1870年代以降、特に郊外の都市公共交通の重要性が増した。その建設・営業形態は、地方自治体ごとの営業認可制度であった。都市交通整備の過程は、各都市の地理的条件や政治的状況により相違がみられた。本研究ではマルセイユやリヨンの首長、パリの市議会議員たちが、選挙を意識しながら公共交通政策を「市町村社会主義（socialisme municipal）」として如何に実施してきたのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本の歴史地理学の研究動向とは異なり、フランスでは都市化における重要性にもかかわらず、都市公共交通に関する本格的な歴史研究は少ない。本研究では三大都市における地理的条件と人口動態の相関関係を分析したうえで、市長や市議会による都市公共交通政策や、私企業による建設・運営状況、住民の組織化、さらに個人・家族の居住・職業形態の変化への影響を可能な限り考察した。以上の研究成果は、日本の歴史地理学・都市地理学における比較研究の基盤となる。さらに、自家用車が普及していなかった時代における都市公共交通の歴史の考察により、現在、数多くの問題を抱えた日本の都市公共交通を見直すきっかけとなることも期待される。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the relationship between urbanization and the development of urban public transport in three major cities (Paris, Lyon, and Marseilles) of France. The importance of urban public transport, especially in suburban areas, has increased since the 1870s in large French cities. The construction and form of management employed is a concession system in each local government. Moreover, the urban transport development process has been different depending on each city’s geographical and political conditions. This study clarifies how the mayors of Marseilles and Lyon, as well as city councilors in Paris, have implemented public transport policies as part of “municipal socialism (socialisme municipal)” while being conscious of elections.

研究分野：都市史、社会史

キーワード：都市化　都市公共交通の整備　路面電車　パリ　リヨン　マルセイユ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本の歴史地理学会においては、日本の都市公共交通の歴史に関して、三木理史氏を中心に精力的に研究が行われている（三木理史『都市交通の成立』2010 年等）。経済史の分野においても、老川慶喜氏や高嶋修一氏らにより、都市公共交通の経営史の研究が進められてきた（老川慶喜編『両大戦間期の都市交通と運輸』2010 年）。一方、フランスに関しては、筑波大学の地理学者グループにより、パリ大都市圏の研究が 1998 年に刊行され、現在でも基礎文献の一つとなっている（高橋伸夫他編『パリ大都市圏―その構造変容―』1998 年）。その後、地方都市に関する都市化のいくつかの研究が行われたが、こうした一連の研究は第二次世界大戦後の地域構造の変化に主眼が置かれている（高橋伸夫他編『EU 統合下におけるフランスの地方中心都市：リヨン・リール・トゥールーズ』2003 年、手塚章他編『ヨーロッパ統合時代のアルザスとロレーヌ』2008 年）。また、都市公共交通に関しては、それ自体が主要な研究テーマになっていない。パリの都市公共交通の歴史に関しては、フランス人の経済史家マルゲラズの経営史研究が翻訳され、都市計画史が専門の北河大次郎氏の研究も刊行された（ミッシェル・マルゲラズ『20 世紀フランス資本主義史論』2004 年、北河大次郎 『近代都市パリの誕生―鉄道・メトロ時代の熱狂―』2010 年）。

以上のように都市公共交通に関する研究は、地理学、経済学、歴史学、土木工学などの複数の分野で研究が行われてきたが、都市化における都市公共交通の歴史的役割の全体像を把握するためには、総合的なアプローチが必要となる。申請者はこれまで、マルセイユの東部地域を対象にして、都市公共交通の整備と都市化の歴史を総合的に研究してきた（「フランス地方大都市における都市公共交通サービス―マルセイユ市の事例を中心に（1870 年代～1930 年代）―」『社会経済史学』2013 年等）。具体的には、歴史地理学と人口学の研究を基礎としながら、都市政策史や経営史、さらには社会史の方法を用いた。その成果としては、マルセイユの都市化の研究からは以下の点が明らかになった。主要な交通手段であった路面電車による「都市化」は、自然に進行したのではなく、市長・市議会、私企業の路面鉄道会社、住民・住民組織の三者による、相互依存と駆け引きで歴史的に展開した。そして、郊外にまで公共交通網が拡大した結果、個人や家族の住居選択・職業選択にまで影響を及ぼしたのである。

２．研究の目的

申請者は博士論文の研究成果等で、マルセイユの東部地域を対象にして、都市化の過程で都市公共交通が歴史的に果たした社会的意義を明らかにしてきた。しかしながら、こうして明らかになった結果が、マルセイユ特有の現象であったのか否かを検証するために、フランスの他都市と比較分析する必要がある。フランス全体を視野に入れつつ、マルセイユと地理的・経済的状況が大きく異なる、首都パリと第三の都市リヨンを今回の考察対象とする。また、東部地域以外の、マルセイユの他地域に関しても補足調査を実施する。

フランスの都市公共交通の建設・営業形態は、1930 年代までは、ドイツなどとは違い、公営・半公営ではなく、地方自治体ごとの営業認可制度であった。三大都市の面積は、パリ市は 7,802 ヘクタール、マルセイユ市は 22,336 ヘクタール、リヨン市は 4,318 ヘクタールと大きく異なり、都市公共交通政策にも相当の違いがみられた。このような三大都市の歴史を考察対象として、都市公共交通の社会的意義を明らかにしていく。大部分の住民が自家用車を所有していなかった 1870 年代から 1930 年代までを考察することで、都市公共交通の本来の役割を浮き彫りにするのが本研究の課題である。

３．研究の方法

(1) 文献・史料調査と分析

フランスでの現地調査を実施する前に、フランス都市地理学・都市史および交通史に関する研究動向を調査した。こうした研究文献を集中的に読み込み、フランス全体の都市化の傾向と、都市公共交通の発展史の概観を把握した。パリ市を研究対象の一つとしたため、パリ市・パリ都市圏関連図書の収集を行った。同時に、複数あるパリの史料館のインターネットサイトで、事前に史料の所在調査を実施した。

(2) 研究内容と到達点

これまでの研究で、フランス全体を視野に入れた場合、パリの都市公共交通の発展は特異な状況にあったことを明らかにしてきた。フランスの地方大都市では、他のヨーロッパの大都市と同様に、1920 年代までは路面電車が主な公共交通手段であった。一方、首都パリは、1900 年に地下鉄が開通したが、地上交通では、地方では既に使われなくなった馬車鉄道が 1917 年頃まで、主要な交通手段として用いられていた。こうした状況を生み出した様々な要因を、現地の史料調査から解明を試みた。また、マルセイユ東部地域の調査結果からは、路面電車の建設

問題が浮上した際に、主に街区（カルティエ）内での住民の組織化が見受けられた。この現象が都市化を促す一要因となっていた。パリにおいても、こうした住民組織が誕生していたのかについて、市報や新聞、請願書などの史料調査する計画であった。

パリ国立史料館（Archives nationales - Site de Pierrefitte-sur-Seine）およびパリ史料館（Archives de Paris）で史料調査を実施した結果、以下の点が明らかになった。パリ郊外においても 19 世紀末より路面電車への需要が高まり、郊外からの「乗入れ電車」が次々と建設された状況を多くの計画地図から確認できた。さらに、路面電車の路線建設を要望する請願書が、多数の郊外住民より出されていた事実を把握できた。マルセイユではカルティエ（街区）レベルで住民組織が形成されていたが、パリ郊外の住民たちはコミューン（市町村）の首長に委ねて、このような請願書をセーヌ県などに提出する傾向にあったようである。今回の調査ではマルセイユやリヨンで見受けられた、複数の街区が連盟を結成するまでに至る郊外住民の組織化はパリでは確認できなかった。この点については、次回の研究課題において、より詳細な調査を進める必要がある。

リヨンとマルセイユに関しても最終年度に現地調査する計画であったが、感染症拡大の影響により渡仏が不可能となった。そのため、手元にあった史料と研究文献を用いて、パリでの研究成果を取り入れつつ、マルセイユやリヨンの首長、パリの市議会議員たちが、選挙を意識しながら公共交通政策を「市町村社会主義（socialisme municipal）」として如何に実施してきたのかについての論文を執筆した。本研究課題の集大成として位置づけられるこの論文を、フランスの国際誌 *Histoire, économie & société* に投稿し採用された。近年フランスの歴史研究では「市町村社会主義（socialisme municipal）」に関して総論が何点か刊行されているが、具体的な都市政策に関する分析とその社会的影響の考察が評価され掲載が決定した。

４．研究成果

本研究課題は、上述した論文“« Tramway à deux sous », naissance d'une politique du transport public urbain: une tentative du premier maire socialiste de Marseille, Siméon Flaissières (1892-1902)”, *Histoire, économie & société*, 2021/2 (40e année)に研究成果が集約されている。特に、都市公共交通による都市化の過程において、以下の①でみられた政策決定の内容が、各時代の政治的・経済的制約によりかなり複雑であったことを明らかにした。

①市長・市議会（「平等主義」の公共サービスを私企業に要求、市議会義議員選挙を意識）
②私企業の路面鉄道会社（実際に路面電車などの建設・運営を行う、利益を重視）
③住民・住民組織（21 歳以上の男性は選挙権を持つ、請願書を提出、住民の組織化）
→都市公共交通による都市化が進行
（1920 年代までは機能、その後は自家用車の普及と、大不況の影響により弊害が生じる）

③に関しては、現地調査が不可能になったことも影響し十分に明らかにできなかったため、次回の研究課題（フランス諸都市における都市化と住民組織の形成史―都市公共交通整備の問題を中心に―）として設定した。今後の研究では、フランスの都市化の過程において重要な役割を果たした、任意の住民組織である街区委員会(Comité de quartier)の歴史的起源を、複数の大都市（パリ、リヨン、トゥールーズ）において調査し、こうした組織が形成されてきた地域の背景や社会的要因を明らかにすることを目的とする。その成果をもとに、現在も解決されていない住民組織の「地域代表性」をめぐる問題を、その歴史的形成過程から再考する。こうした今後の一連の考察は、本研究が設定した課題である、都市公共交通の社会的意義を明らかにし、都市公共交通の本来の役割を浮き彫りにすることにも繋がるであろう。

［雑誌論文］

①國府久郎「書評『マルセイユの都市空間―幻想と実存のあいだで―』（深沢克己著）」『社会経済史学』（社会経済史学会）84 巻、2018 年、109-111 頁、査読無。

②Hisao KOKUBU, “« Tramway à deux sous », naissance d'une politique du transport public urbain: une tentative du premier maire socialiste de Marseille, Siméon Flaissières (1892-1902)”, *Histoire, économie & société*, 2021/2 (40e année), p. 83-102, 査読有.

[学会発表]

①國府久郎 「フランス地方大都市における都市公共交通の整備と都市化（1870 年代～1930 年代）―郊外住民への社会的影響―」南欧研究会、2020 年 1 月 11 日、於帝京大学。

②國府久郎「マルセイユ郊外における路面電車敷設の社会的影響（1870 年代～1930 年代）」フランス経済史研究会、2019 年 3 月 16 日、於早稲田大学。

[図書]

①國府久郎（分担執筆）「マルセイユ〈フランス〉―路面電車で旅するベル・エポックの港町」松原康介編著『地中海を旅する 62 章―歴史と文化の都市探訪』2019 年、136-140 頁。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Hisao KOKUBU	４．巻 40-2
２．論文標題 Tramway a deux sous, naissance d ’ une politique du transport public urbain: une tentative du premier maire socialiste de Marseille, Simeon Flaissieres (1892-1902)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Histoire, economie et societe	６．最初と最後の頁 83-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 國府久郎	４．巻 84
２．論文標題 「書評『マルセイユの都市空間ー幻想と実存のあいだでー』（深沢克己著）」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『社会経済史学』（社会経済史学会）	６．最初と最後の頁 109-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 國府　久郎
２．発表標題 フランス地方大都市における都市公共交通の整備と都市化（1870年代～1930年代）　―郊外住民への社会的影響―
３．学会等名 南欧研究会（帝京大学）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 國府久郎
２．発表標題 「マルセイユ郊外における路面電車敷設の社会的影響（1870年代～1930年代）」
３．学会等名 フランス経済史研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 國府久郎（松原康介編著）(分担執筆)	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 400
３．書名 「マルセイユ〈フランス〉ー路面電車で旅するベル・エポックの港町」『地中海を旅する62章ー歴史と文化の都市探訪』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関